「専大ベンチャービジネスコンテスト」今年も開催

あなたの夢の事業を描いてみよう！町おこしや商店街活性化のアイデアも…

▲昨年のプレゼンテーション風景から

学生部では昨年大きな反響を呼んだ「専大ベンチャービジネスコンテスト」を今年も開催する。

ビジネスモデルやベンチャープランだけでなく、各地で話題となっている町おこしや商店街の活性化のアイデアも対象となる。募集に先立ち行われる「ベンチャー入門講座」「ベンチャー入門ワークショップ」の講師にも山形県で商店街ネットワーク作りに携わった方などが予定されている。

希望者にはベンチャー企業体験入社（ベンチャーインターンシッププログラム）の企画もあり、「いつか社長に」という夢を持つ多くの学生に参加して欲しいと学生部では話している。

募集については次のとおり。申し込み・問い合わせは学生生活課へ。

■申し込み用紙提出＝10月7日(火)締め切り
■対象＝全学生（院生を含む）、グループでの応募も可
■審査方法＝ビジネスプラン説明書とプレゼンテーション
■プレゼンテーション大会＝11月3日(月)生田キャンパス9号館会議室（予定）
■表彰＝鳳賞1名（グループ）海外旅行券、優秀賞数名
■発表＝学生生活課掲示板・「ニュース専修」11月号

キャリアデザイン支援の本格化へ向けて 学生部長 池本正純

戦後の高度成長の時代に適合すべく築き上げられた日本の経済システムの構造変革が迫られる中で、大学も新たな役割を模索すべき時代が来ています。「教育は大学を卒業してから会社でやる」という皮肉に、もはや安住していられなくなりました。

学問や専門知識を授けるのが大学ではありますが、同時に若者を社会に送り出す教育の最終仕上げの段階でもあります。大学で学ぶことがどのように職業に結びつくのか、自分の人生の将来にどのように生きてくるのか、学生たちは不安がいっぱいです。

「就活」の開始が、大学生活の終了なのだという安易な二分法の発想ではなく、大学生活や教育システムそのものの中に、学生自らの職業（使命）観を積極的に模索し、社会に向き合う覚悟を育んでいくための多様な仕組みを構築していくことが求められています。このような問題意識に基づく取り組みは、一般にキャリアデザイン支援と呼ばれていますが「ベンチャービジネスコンテスト」という学生部企画もその努力の一環なのだとご理解ください。

〔5月15日/ニュース専修14面〕

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

【県人会 北から南から】静岡県人会

▲昨年の夏合宿で、白糸の滝をバックに（中央の白いシャツ、腕を組んでいるのが荻田会長）

「テンションが高く、ハートの熱い会員ばかりです」と荻田貴光会長（ネットワーク情報3・静岡県御殿場南高）が話す静岡県人会。現在、会員は約50人で、自県出身者が約7割を占める。

スポーツが好きな会員が多く、学内のスポーツ行事には積極的に参加。昨年末に行われた連合県人会（連県）主催のサッカー大会『天下統一』では、村松拓くん（商2・静岡県磐田東高）、北舛雄一くん（商2・兵庫県滝川第二高）を中心に“サッカー王国”静岡県の実力を見せ、見事優勝。今月7月から開幕した『川島杯』（連県主催の野球大会）でも上位進出を目指す。青衿祭などの他の連県行事や中部地方の県人会が合同で行うブロック行事にも多くの会員が参加しており、他県人会との交流も盛んだ。

会の活動でメーンとなるのは夏と冬の年2回の合宿。夏合宿では夏季地方活動として静岡県内の名所・旧跡を巡る。昨年は、レンタカーで富士山一周旅行を実施。24人が参加し、田貫湖から反時計回り富士山を一周し、河口湖や白糸の滝などを見学した。

「先輩・後輩が交流する貴重な機会となり、充実したものになりました」と萩田会長。今年の2月には冬合宿で長野県の野沢温泉へ。約20人が参加し、スノーボードなどを楽しみ、親睦を深めた。

鳳祭の模擬店もユニークだ。昨年は「チャッフル」（抹茶風味のワッフル）と富士山をモチーフとした「Fujiyama」（青く着色したワッフルに白砂糖をかけたもの）の二つのオリジナル商品を販売。「作るのが間に合わないほど盛況でした」と萩田会長。

「今年もさまざまな行事に積極的に参加して、県人会を盛り上げていきたい」と話した。

〔5月15日/ニュース専修14面〕

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

五十嵐信日子さん（二部法4） NHK全国俳句大会で入選

平成14年度「NHK全国俳句大会」で、五十嵐信日子（のぶひこ）さん（二部法4）の応募俳句「神無月我が子と歌う童歌」が見事入選した。

同大会はNHK・NHK学園が主催して、毎年全国から俳句ファンの作品（一般の部・ジュニアの部）を公募、1月に大会を開き、特選、秀作、入選作品が選ばれるもので、一般の部の選者は、稲畑汀子、金子兜太氏ら20人。14年度は4万7000通（1組2句）の応募があり、そのうち9000句が入選した。

五十嵐さんは岩手県盛岡一高（二部）を卒業。消防学校を経て昭和51年消防士になり、現在は世田谷消防署に勤務。本学では藤田由紀子ゼミで環境問題に取り組んでいる。「4年前に母が亡くなり、その頃から俳句をつくるように」なって、折りに触れ、手帳に作品を書き留めていたという。

「俳句の結社に入っているわけでもなく、全く自己流でつくっていました。今回たまたまテレビを見て応募したので、本当にうれしい。これからもマイペースで続けていきたい」と言っている。

〔5月15日/ニュース専修14面〕

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.